令和６年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　南丘　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和６年４月１８日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１０日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問調査

児童質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の６年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	平均正答数は全体的に本市の平均をやや下回る傾向である。話すこと・聞くこと・書くことの領域に比べて、読むことの領域に課題がみられる傾向がある。
	よくできた問題	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる内容や目的や意図に応じて、集めた内容を分類したり関係付けたりして伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる内容。
	努力が必要な問題	物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書くことができるかや登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に人物像を具体的に想像し。捉えることができるかどうかをみる内容。

算数	全体的な 傾向や特徴など	平均正答数は本市の平均を少し下回る傾向であるが、データ活用の領域では本市の平均に限りなく近づいている傾向がみられる。
	よくできた問題	数と計算領域において、除数が小数である場合の除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題やデータの活用領域において簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して落ちや重なりがないように分類整理する内容
	努力が必要な問題	変化と関係の領域において、速さの意味について理解しているかどうかをみる問題や速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる内容。

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
○「心の育ち」について自己肯定感が低い傾向がみられる。「自分によいところがあると思いますか。」の問いに対して、７５％の児童が肯定的な回答をしており、前年度の平均より２０％も向上しているものの全国平均よりは大きく下回っている。しかし、「人の役に立つ人間になりたい」と回答をした児童は９７％という結果から、児童は、志を高くもち、自分の立てた目標に向かって努力しようとする思いをもっていることがわかる。そこで、今後も学校教育全体を通して、自分のよさが発揮でき、認められる場を設定していく必要がある。 ○「地域や社会をよくするために何かしてみたいことはありますか」については、８９％の児童が肯定的な回答をしている。このよさを生かし、「子ども未来政策委員会」の取組を通して、子どもまん中社会の実現に向けた様々な提言を行った。提言により、自分たちの実現した内容でより地域への愛着が高まっている。 ○本校ではスクールプランの中に「身近に本、気軽に読書」を目標として掲げているが学校図書館やICT等の活用には多くの子どもたちが活発に活用していて、データの活用や整理分析する力はついてきていると思われる。しかし、新聞を読んでいる児童が殆ど見られないことからも文章を読み取り、想像力を膨らませたり、登場人物の生き方に触れるような生きた教材を授業の中に今後とも取り入れ活用する力を身に付けさせる必要がある。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

○今後ともICT等を活用して、基礎基本の定着と向上を図る。
○各授業において、図表やグラフ、文章など、複数の資料から必要な情報を見付けたりするようなデータの活用を今後とも高めるような工夫を図ることと、物語などの読書の推進を図るなど国語科の学習や生活科・総合的な学習の時間などを活用して、個別最適な学びの育成と読解力の向上を目指すような取り組みを意図的・計画的に行えるような場を位置付けるようにする。

②　家庭生活習慣等に関する取組

○家庭学習の指導・支援や読書習慣や放課後の居場所づくりへの啓発を地域と連携して行う。
○このことを学校通信、学年通信、ホームページ等で広報し、子どもたちの安全・安心な場の確保と体験活動の充実を図るようにする。